

1月3日に静岡市駿河区のグ
ランシップで開かれた同市十
歳の記念式典の実行委員長を務
めた。静岡市立高卒、常葉大教
育学部2年。20歳。

―式典を振り返って。

「式典に備え、晴れ着を着る
ために早起きするなどしたた
さんの人の特別な一日に関わる
ことができてよかった。3千人
が参加する規模のイベントを自
分たちが主体で準備するという
のは、大学生活ではなかなかで
きない経験。半年間試行錯誤し
ながら準備してきて、今後の自

静岡市二十歳の記念式典実行委員長を務めた

おひら きゆう
尾平 樹優さん

(静岡市清水区)

この人



信にもなった。友人からもねぎ
らってもらい、やってよかった
と思える反応を多くもらった」
―実行委員長就任の経緯は。
「去年の式典でも実行委員と
して活動した。一つ年上に当た

る実行委員長の背中を見て、自
分もやってみたいと感じた。元
々実行委員に応募したのは大学
生活の中で何か挑戦したいとい
う気持ちから。より大きな役割
も担ってみたいと思った」
―準備で意識したことは。
「委員間のコミュニケーション
を大切にしようと思った。い
た。今年の委員は14人。準備は
グループごとの分業制で進め、
最後は集約する。それぞれ学業
やアルバイトもある中、全体の
進み具合や内容を把握して橋渡
しができるよう心がけた。頭に

思い浮かべるものがそれぞれ違
うので、一つのをみんなだ
決めていく難しさを感じた」
―どんな大人になりたいか。
「春には大学3年になり、将
来を明確に決めていく時期を迎
える。目指す職業は決めかねて
いるが、一貫して思っているの
は『人が笑顔になれる手伝いが
したい』ということ。いろい
ろな人と関わって、自分が笑顔に
できる仕事に就きたいと考えて
いる」
(清水支局・大村花)